

## 平和の尊さを考える ～「平和パネル展」開催～

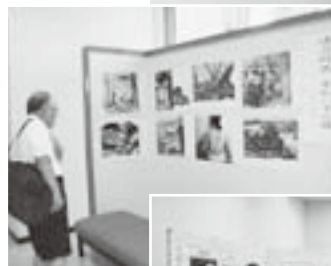
8月6日～23日にかけて群馬県勤労福祉センターおよび前橋テルサで、また、8月7日～8日にかけてけやきウォーク前橋において平和パネル展を開催しました。

各会場では、広島と長崎の原爆投下で被害を受けた人々の悲惨な光景や、建物の状況から破壊力の強さが分かるパネル、また連合群馬平和行動の活動写真を展示しました。

けやきウォーク前橋では、パネル展のほか平和への祈りを込めた「女性たちの戦争体験」のビデオを放映し、親子連れなど数多くの方が足を止めて聞き入っていました。中には再び知人を連れて来場し「先日、広島を訪れ原爆ドームなどを慰霊したばかり。前橋でこのような体験談を聞けるとは思わなかった」と声を震わせながら話された方もいました。多くの来場者は折り鶴や北方領土返還要求の署名活動にご協力いただきました。



勤労福祉センター



前橋テルサ

けやき  
ウォーク前橋

## 核兵器なき世界へ想いを込めて！

### 平和行動in広島



古賀会長挨拶



ピースウォークへの参加

8月4日～6日、6産別2地協と事務局の12名が参加しました。

1日目の平和ヒロシマ大会では、古賀会長から、「米国とロシアが核兵器のない世界実現に向け具体的な措置を取るとともに、核拡散防止条約も10年ぶりに文書採択し新たな一步を踏み出せた。連合も核兵器廃絶と恒久平和に向け取り組みを展開する」と挨拶がありました。

その後、全都道府県から折鶴(連合群馬1万1千羽)が献納され、平和アピールが採択されました。

2日目は、連合主催の平和の語り部・被爆体験の証言に参加し、20歳で被爆した坪井直さんから体験談を聞くとともに、ピースウォークでは、平和公園内の慰霊碑を巡り原爆の子の像に1万1千羽の折鶴を献納し、恒久平和の想いを共有しました。

3日目は、広島平和記念式典に参列し、核兵器廃絶と恒久平和を確認し合うとともに、原爆投下国である米国のルース駐日大使や国連潘基文事務総長が出席するなど、新たな一步を踏み出す歴史的な式典となりました。



原爆の子の像前での参加者

### 平和行動in長崎



恒久平和を願って、折鶴の献納

8月7日～9日、4産別2地協と事務局の12名が参加しました。

1日目の平和ナガサキ大会では、南雲事務局長から、「被爆65年、今なお原爆症に苦しんでいる多くの方への救済が進むことを願っている。核兵器は、世界で2万発も存在し、人類に脅威を与えている。今年5月のNPT会議で条約の運用、将来に向けた具体的な行動計画を含む文書が採択され一歩前進した。私たち連合は、核兵器廃絶と世界の恒久的平和に向けて取り組む」と挨拶がありました。

その後、被爆者の訴えやピースメッセージ、高校生平和大使報告と決意などが行われ、平和アピールが採択されました。

翌日は、連合主催の「ピースウォーク」に参加し、平和公園内の慰霊碑を巡り3万羽の折鶴を献納しました。また市内見学による原爆の傷跡や歴史文化を学び、核兵器廃絶と恒久平和への思いを強くしました。



会場前での参加者